

バードウォッチング ～自然環境の大切さを感じる～



10月26日(金)：大津潟

田鶴浜小学校6年生48人は、自分たちの地域に住み着く野鳥を調査した。身近な自然環境に関心を持ってもらうことが目的。アオサギやカイツブリ、ミサゴなど1時間で約10種類を双眼鏡で観察した。空から水中の獲物を狙ったり、群れで飛び回ったりする野鳥の姿を珍しそうな表情で眺める児童が多くいた。白田紗愛さんは「思っていたより、いろいろな種類の野鳥がいたことに驚いた」と興味津々。児童たちは、野鳥観察を通じて、自然環境の大切さを感じたのでは。

小学校合同音楽会 ～友達とのつながりを深める～

11月9日(金)：七尾サンライフプラザ

音楽を通して、学校間の交流を深める小学校合同音楽会。市内全13校の4年生（一部3年生、5年生含む）440人が、これまで練習を重ねてきた合唱や和太鼓を披露した。児童たちは、保護者やほかの児童たちでいっぱい埋め尽くされた会場を見ても緊張することなく、一生懸命歌った。和太鼓演奏では、男の子も女の子も、きりっと引き締まった顔つきで、見事なバチさばきを見せていた。児童たちは、音楽を通して友達とのつながりをさらに深めることができたのでは。



中学校合同音楽会 ～力強いハーモニー～



11月16日(金)：七尾サンライフプラザ

参加した中学校2年生510人は、聞いている人の心に届くように、力強いハーモニーを響かせた。流行りのポップス曲や和太鼓など日頃の練習の成果を披露。会場には、保護者らも訪れ、生徒たちの演奏を楽しんだ。生徒は、他校の合唱に聞き入り、お互いに大きな拍手を送った。最後は、参加者全員で「語りあおう」を合唱し、学校の枠を超えて心を通わせた。生徒たちは、音楽を通して気持ちをつなぐ機会となった。



10月30日(火)：千寿苑（千野町）

長男やひ孫、施設の入所者などの皆さんが集まり、にぎやかに誕生会が開かれた。武元市長からお祝いの花束が贈られ、きみ乃さんは「ありがとうございます」とうれしさのあまり涙ぐむ場面があった。車イスの生活ではあるものの、顔色は良く元気に過ごしている。長男の辰男さんは「好き嫌いがなく家族みんなと同じものを食べていたことが、長寿の秘訣ではないか」と話した。これからも元気で長生きしてください。

100歳誕生日おめでとうございませす
 ～小藤きみ乃さん～



10月29日(月)：北星小学校

本への興味をもってもらう目的で、中央図書館の司書が児童に、本の読み聞かせをした。読んだ本は手足や目、耳が不自由になった人の話。司書の語りかけるひとことに、児童は真剣に耳を傾けて話の世界に浸っていた。また、目が不自由な人用の点字の本や、大きな文字で書かれている本などの紹介もあった。児童は「点字の本を触ってみたい」と手を出して関心を示していた。読書の秋、児童には、たくさんの本に親しみ視野を広げてほしい。

読書の秋ブックトーク
 ～視野を広げてほしい～



11月10日(土)：熊木公民館

中島町熊木地区の小学生12人は、野菜たっぷりのドライカレーやワンボールサラダなどの料理づくりを体験。玉ねぎで目がしみたり、硬い人参を慣れない手つきで切ったりするなど、児童たちの苦戦する姿が見られた。清水智也（ともや）君（中島小学校6年生）は「千切りやみじん切りなど、学校で習っていないことを教えてもらって、楽しかった」と感想を話した。児童たちは、食べ物を大切にすることを実感したのでは。

キッズクッキング
 ～食べ物大切に～



10月30日(火)：ひまわり保育園

異文化に触れ、国際感覚を養ってもらおうと、ヨーロッパの伝統行事「ハロウィーン」が行われた。ひまわり保育園の園児たちは、かぼちゃや魔女などに仮装。帽子やマントなどの衣装は、紙やナイロンに色紙を貼り付けた園児の手作り。園児たちは、紙コップを持って各部屋へ。「トリック・オア・トリート（お菓子をくれないといたずらしちゃうぞ）」とお菓子を先生たちにねだった。園児にとって思い出に残る一日となった。

異文化に触れる「ハロウィーン」
 ～魔女や獅子舞などに仮装～



11月16日(金)：和光苑（津向町）

家族や施設入所者たちが、ふみ子さんの100歳の誕生日を祝った。富岡町で生まれ18歳で結婚し、魚屋と家事を切り盛りしながら8人の子どもを育て上げた。三女の藏田梢さんは「若いときは働き者で、もめごとが嫌いな、やさしい母でした」と当時の思い出を話してくれた。ふみ子さんは「ありがとうございます」ととびきりの笑顔を見せてくれた。いつまでも元気で過ごしてください。

100歳誕生日おめでとうございませす
 ～藏田ふみ子さん～



11月12日(月)：七尾美術館

講師の豊重哲郎さんは、思いもよらない地域再生の取り組みを打ち出し、多くの成功を収めた。その中でも、農業経験が豊富な高齢者に着目し、住民との共同作業で、サツマイモの苗植えから焼酎の製造販売を実施。その焼酎が人気を呼び、予想もしない売り上げをもたらした。利益配分として、住民にボーナスを支給する実例を紹介。豊重さんの座右の銘は「地域再生の手法は感動」。豊重さんの気持ちは、参加者すべてをとりこにした。

行政に頼らない地域再生講演会
 ～参加者をとりこにさせる～